



## WINTERREISE 『冬の旅』全24曲 D.911

原詩: Wilhelm Mueller 作曲: Franz Peter Schubert

日本語対訳: 西野 茂雄 部分的改訳: 吉田(阿咩) 旅人

＜一人旅＞朗読・ピアノ・歌 吉田(阿咩) 旅人

**2011年4月8日(金)** 13:30 開場 14時: 開演 ~16時15分 終演

京都市・北 文化会館 <創造活動室> (裏面に会場の案内地図)

**入場:無料**

(お帰りの際に、今回の演奏を良しとして頂けたら、お一人、¥1000 までの、カンパを頂けたら、感謝です)

**KOLLEGE der MUSIK <音楽仲間>**

関西連絡網・代表として、岡田俊一氏をお願い致しました。

電話: 携帯電話: パソコン・メール・アドレス: [toshi-o@momo.so-net.ne.jp](mailto:toshi-o@momo.so-net.ne.jp)

今回の「冬の旅」の演奏企画に関するホームページ: <http://okada.sub.jp/tabibito/>

みなさんそれぞれの連絡網で、同郷、同級友、同じ趣味の方々へ、コマーシャル頂ければ、幸いです。



分水嶺を越えて老境に入り、尚、旅に出る。しかし<死出の旅>ではない。この歌曲集「冬の旅」を、聴く人々をも連れた共感の旅にしたい。誰も、様々なところを通して今がある。言うに言えぬ自分史を溜めているものである。それを認め合い、互いの辛苦を、喜びに変えたい、と願う。「冬の旅<Winterreise>」は、その大部分が、冷たい、厳しい、「死」を思い詰めた歌曲の連続である。「菩提樹」も「春の夢」も、幸せな、懐かしい名曲ではない。「からす」は、チベットの<鳥葬>の風景である。「まぼろし (第 19 曲)」では、ホームレスの心が身に染みて解る。しかし、我々は、西洋の人々と同じ<絶望>を歌うのではない。西洋の人々は、この歌曲集に絶望してしまうのだ。そんなつもりでミュラーもシューベルトもこの作品を生み出したのではない。絶望して、真っ青になって、会場を後にするか。2011 年の<続く旅路>の意味を、互い胸に確かめながら、<生きる>とは、何かを考えながら、別れの杯を乾したいものだ。<再会>を期して。

「風見の旗」(この世には、風見鶏のような者がうようよいる)の変節を笑い、「鬼火」の飛び交う中でも、自分を失わぬ人間、手足を<凍傷>にやられて、尚、歩くことを諦めない(「休息」)者、鴉に嘲[あざけ]られても、心のロマンを失わず(「春の夢」)、幸せそうに生きる人々を眺めて、自分の嵐を懐かしみ(「孤独」)、一枚の葉に自分の希望を託す余裕!を歌い(「最後の望み」)、犬(官憲かもしれぬ)に吠え掛けられても、平然と歩ける気概(「村で」)、嵐に立ち向かって、不幸のどん底にありながら、それを「自分の朝=出発!」と放吟し(「嵐の朝」)、誰一人帰って来たことのない墓場への道(=姥捨て山=「楢山節考」)を辿る覚悟は、並大抵のものではない。「死にたい」とは、言うのは簡単であるが(「道しるべ」)。覚悟して<恐山>に登って来た旅人は、そこに座る老人に、「死ぬ、死ぬ、とは言うが、お前は、本当に<生きる>を経たのかな? 儂[わし]は、<生>を経た者であるがのう」、と呼びかけられる(「宿」)。ここで、本当の<生きる>闘いに出る覚悟の出来た旅人は、「この世に、神がないのなら、俺自身が、神になってやる!」、と言い放つ(「勇気」)。最愛の二つの眼[まなこ]は、もうないし、三つめの太陽も要らん! 「暗くなって始めて<光>が見えている」(「幻の太陽」)と歌う。見れば、あそこに、乞食音楽士が、ライアーを回して演奏しているではないか、あれに付いて行こう。「おっさん、俺が歌うから、そのライアーで音楽をつけてくれよ」(「辻音楽士」)、と言って、二人は、続く旅路<Die Weiterreise>に出発するのだ。これは<死>ではない。気が狂ったのでもない。この心を共感しようではないか!

明日をも知れぬ今日を過ごす人、分水嶺どころか、若いにも拘わらず、仕事もなく、プロテストするエネルギーさえない(エネルギーを爆発させぬように教育をされた若者達よ、何故、「仕事をくれ!」と国会を取り囲まないのだ)人々の群れ、世の人々は、簡単に、昔の道に引き返して行く。



京都にお住まいの山下(旧姓:岡田)泰子さんの好意にすがって、この出会いが実現しました。因縁は半世紀以上昔に遡ります。そこへ持ってきて、関西に住む多くの友人達が<輪>を作って頂いて、岡田俊一君が連絡係を引き受けてくれて、旅芸人冥利に尽きます。予め<感謝>の気持をお届けします。僕の連絡網では力不足です。皆様、それぞれの知友に声をかけて頂きますように。

感謝の気持を、演奏で返すしか出来ぬ者です。この出会いが、お互いの人生に、何らかの<生きる>の証しとなりますように祈ります。最後になりましたが、皆様の健康・平安をお祈り致します。  
吉田(阿吽)旅人